

令和7年度 南港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 南港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	59	57	52	6.9	7.9	学校	536
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	56	72.7	59.3	60.4	55.1	55.7	4.3	3.6	7.9	5.7	5.8
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	67	60.6	39.8	54.3	49.3	46.9	8.2	7.2	12.2	4.3	9.4
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	76	64.6	63.6	56.6	69.9	65.4	9.2	1.6	6.8	2.0	4.2
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	68	117.9	113.5	138.3	92.6
	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	66										
2年 男子	学校	27.00	25.44	41.40	48.44	74.65		8.39	183.57	19.73	38.68
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	21.60	22.40	46.32	45.21	48.88		9.14	161.08	13.48	45.45
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	166.44	12.43	47.58

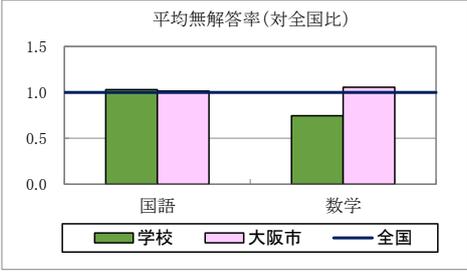
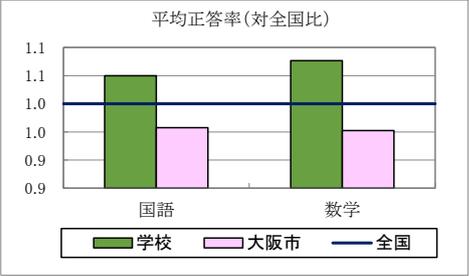
令和7年度 南港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	57	52
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.9	7.9
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

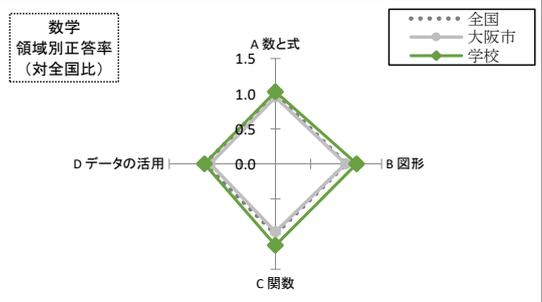
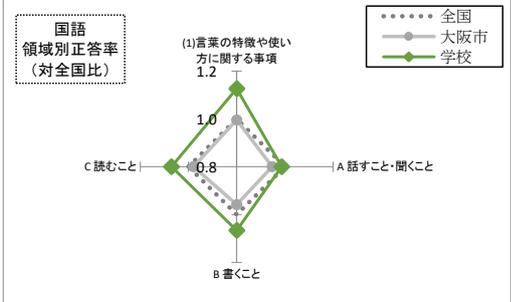
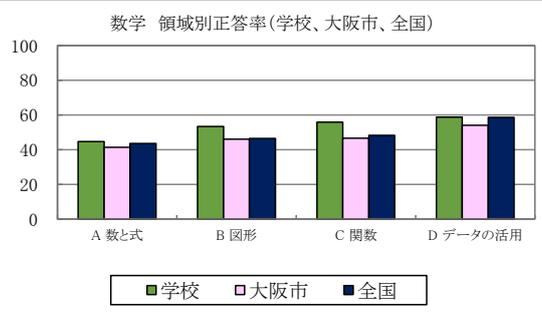
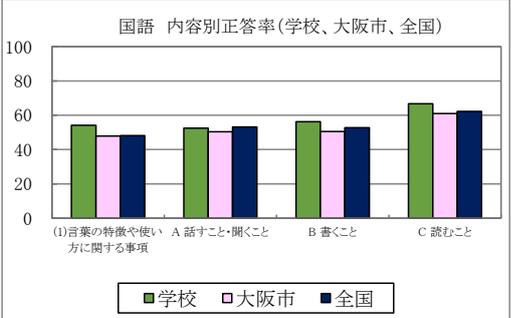


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	54.2	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	52.5	50.4	53.2
B 書くこと	5	56.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	66.7	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	44.7	41.4	43.5
B 図形	4	53.4	46.1	46.5
C 関数	3	55.9	46.6	48.2
D データの活用	3	58.8	54.0	58.6

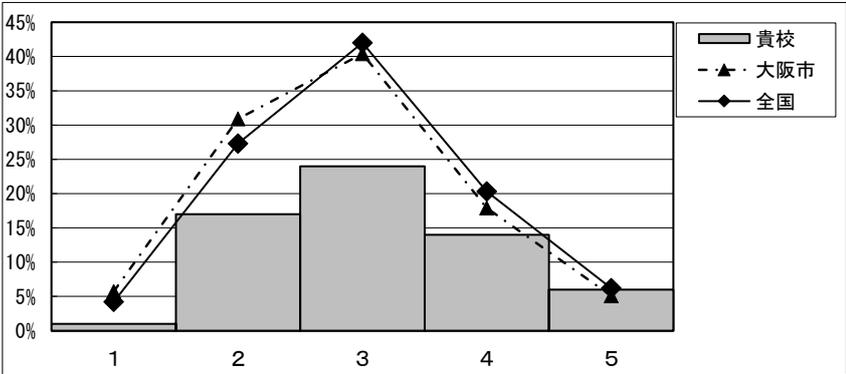
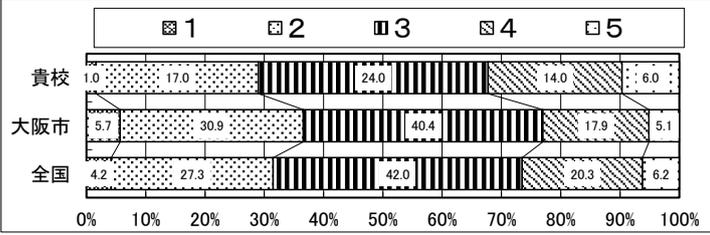


令和7年度 南港南中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	536
大阪市	489
全国	503



令和7年度 南港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【全国学力・学習状況調査】

＜国語＞

《成果》

令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語科は全国平均よりも高い正答率を出すことができた。文章読解の内容整理する問題の正答率が高かった。これは授業において一文一文を丁寧に読む練習をすることで内容をつかむ力が養われたものと考えられる。問題形式からは、選択式の正答率が非常に高く、本文に書かれている内容を理解し矛盾する内容や極端な内容を含む選択肢が理解できていることから文章読解の内容理解の深さがみられる。

《課題》

論述問題からは自身の考えを表現することが苦手なことを伺えた。今後は表現すること、書くことに注力して学習を進めていきたい。あわせて、漢字や知識問題の正答率が少し低いと感じた。知識は一朝一夕で身につくものではないため、粘り強く定期的な漢字、知識の学習・確認が必要であり、生徒自身で学習できる環境を整えることが課題であると感じた。

＜数学＞

《成果》

- ・各々の苦手克服に向けて、1人1台端末を活用した復習を定期的に行った。その結果、全分野において全国平均を上回った。
- ・相手に上手く説明できる生徒が増えてきたが、全体としては、説明文や証明問題に対する苦手意識が拭えず、全国平均を下回っている問題もあった。
- ・標準偏差が全国平均を上回っており、数学を得意とする生徒とそうでない生徒の学力差が大きいことが課題である。

《課題》

今後も、既習内容の復習に取り組み、各生徒が苦手分野を自分自身で見つけて克服し学力の向上を図る。また、新しく学ぶ内容に関しても個人の習熟に合った指導ができるよう、机間観察の徹底と学び合い教えあう学習の時間を確保し、主体的・対話的で深い学びの実現に努めていく。

＜理科＞

《成果》

・授業では、必ずペアワーク、もしくはグループワークを取り入れ、活発な言語活動がすすむよう意識してきた。その際に、学習者用端末を利用することもあり、疑問に感じたことなどをブラウザなどで調べ、理解を深めることをすすめてきた。そうした学習活動を通して、事象が起こる理由などを考察する力が身につけていることが、今回のIRTスコアの高さから見られる。

《課題》

・大阪市だけでなく、全国の平均スコアよりも高い値を示したことを受け、これまでの授業形態を継続し、精査した情報をもとに考えを形成し知識を相互に関連付けてより深く理解できる力の向上を目指していく必要があると考える。

【9年生チャレンジテスト】

○9年生

＜国語＞

《成果》府平均64.2点に対し本校72.7点と大きく上回り、特に「読むこと」「書くこと」で得点が高いことに起因すると考えられる。記述式問題でも府平均よりも高い数値となっている。

《課題》「情報の扱い方」や「書くこと」の得点は府平均との差は小さく、今後いっそうの情報活用能力や文章を読み取るときにその構成を意識し、語彙を増やすことや生徒が文章を書く際に客観的に見直す力の向上を目指す。

＜社会＞

《成果》府平均51.2点に対し本校59.3点で、地理・歴史ともに高得点であった。観点別に得点を見た場合には特に知識・技能について高得点が見られる。

《課題》記述式問題の得点差は小さく、観点別に得点を見た場合に思考・判断・表現の特長が府平均との差が小さく、論述力や表現力の向上のため、授業の中で社会的事象の意味や関連性を考察し、自分の言葉で説明する取り組みを進めることが必要と考える。

＜数学＞

《成果》府平均53.9点に対し本校60.4点で、全領域で府平均を上回る。特に「関数」「図形」で安定した得点を獲得している。

《課題》「データの活用」領域や記述式問題で伸びしろがあると考えられる。統計的思考力の強化や生徒が思考過程を言語化できるよう解答の論理的な流れや表現方法を理解する授業をすすめていく。

＜理科＞

《成果》府平均46.0点に対し本校55.1点と大きく上回り、「生命」「地球」領域で高得点を獲得している。また、観点別に獲得した得点を見た場合にも府平均と比較してもその点差の幅が大きく上回っていることが確認できる。

《課題》「粒子」の領域や記述式問題で得点差が小さい。問題を正確に読み取り、解答に必要な知識を整理し、具体的な理由や根拠をつけて説明する力の向上を図っていく。

＜英語＞

《成果》府平均53.2点に対し本校55.7点で、聞くこと・読むこと・書くことで府平均を上回る。

《課題》府平均との差が最も小さく、特に「話すこと」や記述式で課題が残る。発信型英語力の強化が必要。

【GTEC】

《成果》

- ・本文の内容理解にラウンド制指導を採用したことで、リスニング、リーディングともに、まとまった英文の概要を捉える力がついてきている。
- ・継続的にスマールトークを行ったことで、内容の正確性には課題が見られるものの、発信力と即興力が身についた。

《課題》

- ・長文を読み、正しく主旨や要点を捉えられるようになるために、継続的にリーディング課題を出し、SunshineのReading教材で多読を行う。
- ・まとまった英文を読ませる時にライティングの課題に取り組み、構成を意識した添削指導を行い、自分の書きたいことを論理的に書けるようにする。

令和7年度 南港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

《成果》

全国平均と比べて全体的に数値は低い傾向が見られた。一方で、授業や行事での様子からは「できるようになりたい」「もっと動きたい」という前向きな意欲が感じられる。これまでの、運動への苦手意識を和らげ、誰もが参加しやすい雰囲気づくりを進めてきたことが、意欲の向上につながったと考えられる。

《課題》

授業や行事のなかで感じられる「できるようになりたい」「もっと動きたい」という前向きな意欲を継続させ、基礎体力の向上につなげていく。あわせて日常的に体を動かす機会を増やし、成功体験を積み重ねることで、体力と自信の両方を高めていく。

【7年生チャレンジテスト】

<国語>

《成果》

今回の結果では、府平均を1.5ポイント上回った。半数以上の生徒が平均を上回っていた。解答類型別結果においても、ほとんどの設問で府平均を超えることができていた。

《課題》

記述問題や読解問題において、どれも正答率が高かった一方で、漢字や現代仮名遣い、文法などの基本的な事項の正答率がやや低い結果となった。国語の読解でまずは必要となる基礎基本が定着する授業を行うこと、小テストなどで理解度を測っていく。

<数学>

《成果》

1年間の復習として、長期休業課題に1人1台端末を活用した。その結果、大阪府平均にはわずかに届かなかったが、近い結果を出すことができた。

記述式の問題や応用問題にも対応できるよう、授業の中で対策を行った。その結果、思考・判断・表現の観点で大阪府平均を上回ることができた。

《課題》

計算問題で大阪府平均を下回っていた。基礎・基本の復習を繰り返し行い、丁寧に指導をしていく必要がある。

過去の復習を取り入れつつ、新しく習う内容に関しても個人の習熟に合った指導ができるよう、机間巡視の徹底と学び合いの時間の確保に努めていく。

<英語>

《成果》

府平均65.2に対して本校は65.4とほぼ平均と変わらないが、分布は55～59、80～84の人数が少なめであった。

《課題》

「話の概要を捉えて、内容の要点を正確に把握することができる」の問題の正答率は12.1%と最も低く、無回答率も36.2%であった。このような類の問題が苦手な傾向があるので、授業の中で対策できるようにしていきたい。

リスニングはすべての設問において72%以上の正答率で無回答率ほぼ0%だった。すべてが90%以上の正答率になるようにしていきたい。

【7年生チャレンジテストプラス】

<社会科>

《成果》

毎時間授業終わりの振り返りと授業初めの重要語句小テストを行っていたため、「基礎」にあたる問題の校内平均正答率が大阪市平均正答率を大きく上回った。振り返りの重要性を再確認できた。

《課題》

「活用」の校内平均正答率は大阪市平均正答率を上回っているが、「基礎」に比べると正答率は伸びなかった。小テストや振り返りによって基礎的な知識、技能は身につけているが、その知識、技能を初めて見る問題の形などに応用する力を養うことが課題となった。

<理科>

《成果》

全体としては大阪市の平均点よりも6.9ポイント上回っていたので概ね内容の定着はできていると考えられる。

《課題》

分野別では生物分野の「植物の分類」が大阪市の平均が62.1に対して60.6ポイント、化学分野の「水溶液の性質」が平均59.4に対して58.8ポイントと下回っていたので、今後さらに実験観察を多様に取り入れた授業を行い、振り返りまとめの時間をしっかりと行い学力の定着に努めていきたい。

令和7年度 南港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【8年生チャレンジテスト】

<国語>

《成果》

今回の結果では、府平均を3.9ポイント下回り、昨年よりも下がった。昨年と比べて、漢字や記述問題での正答率が上がっていた。

《課題》

基本的な読解のところで正答率が低いものが目立っていたので、授業を通して確実に読み取る力を身につけてさせる。また、日ごろから自分の考えを書く機会をさらに増やし、文章力を身につけさせる。

<社会>

《成果》

多くの生徒の基礎的な理解はできている。しかしながら、授業の最後に行う振り返り学習や、生徒同士の主体的で対話的な深い学びにつながる学びあい、教えあい活動の重要性を改めて感じた。

《課題》

全体的に平均以下の結果となった。無回答が多く、わからない(特に資料読み取り)問題になると、考えずに飛ばしてしまう生徒もいるため、授業での振り返り学習の中などで、記述式の問題や読み取りの問題などに取り組むことで考えをまとめ、表現する力を伸ばしていく。

<数学>

《成果》

授業で何度も練習したことについては、正答率が府平均より高かった。

計算の分野の正答率は、府平均より高かった。

《課題》

文章問題や初めてみる形の問題では、正答率が府平均より低いことが多かった。

知識、計算技術についてはある程度、身につけているものの、考えることについては今後の課題である。

<理科>

《成果》

全体としては大阪府の平均点よりも2.6ポイント上回っていたので概ね内容の定着はできていると考えられる。

《課題》

分野別では生物分野と化学分野の「粒子」の単元で大阪府よりも平均点が下回っていたので、3年生に向けてしっかりと復習し、定着を図っていきたいと考える。

<英語>

《成果》

今回の結果では平均点が大阪府の平均点より、4.9点低かった。しかしながら、日ごろの授業では前向きに取り組む姿勢がみられるので、今回の結果をふまえ、読むことや書くことに重点をおいた授業を展開していきたいと考えている。

《課題》

授業のじはじめに行う帯学習でのペアワークにより単語力の向上を目指す。また、週1度の習熟授業による文法の学びなおしを行い、基礎学力の向上を図る。1年間を見通した目標を立てて授業を構築していこうと考えている。

令和7年度 南港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

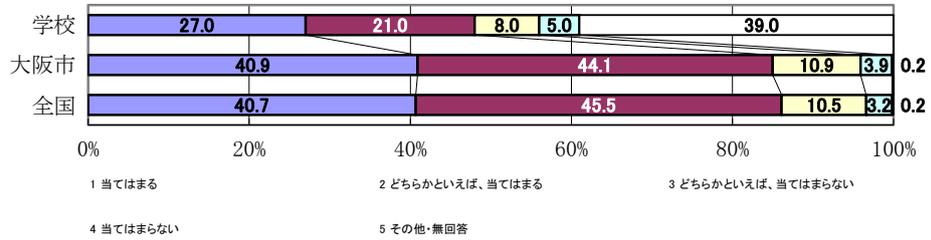
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

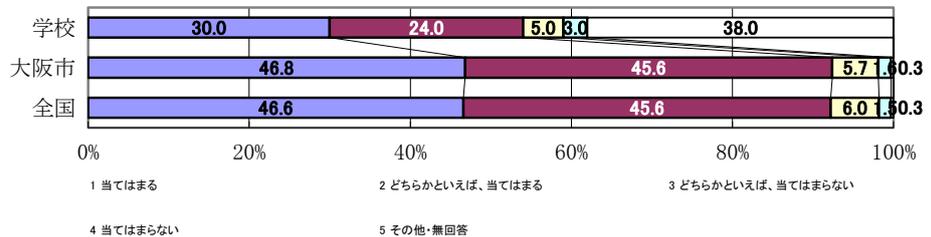
5

自分には、よいところがあると思いますか



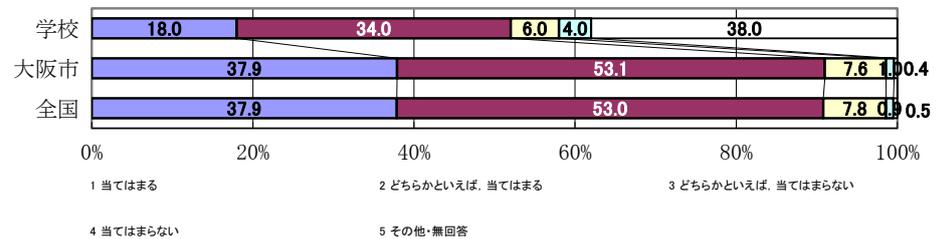
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



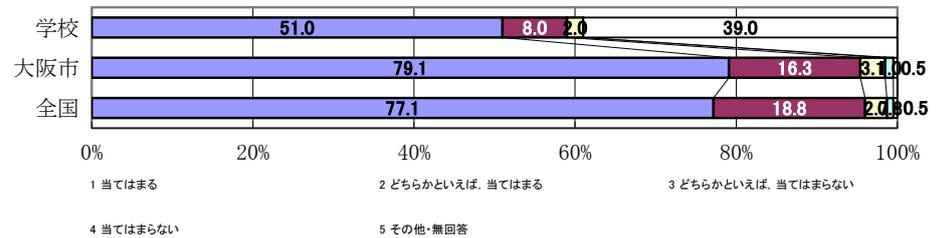
8

人が困っているときは、進んで助けられていますか



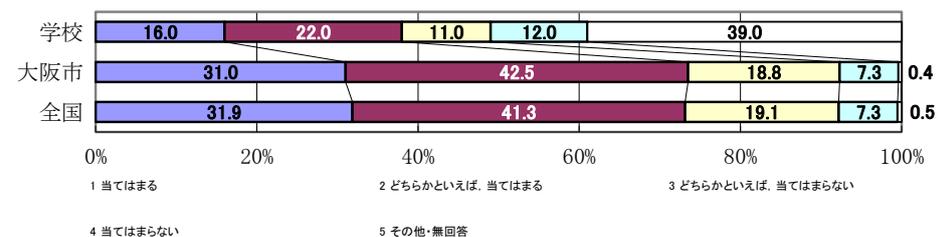
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



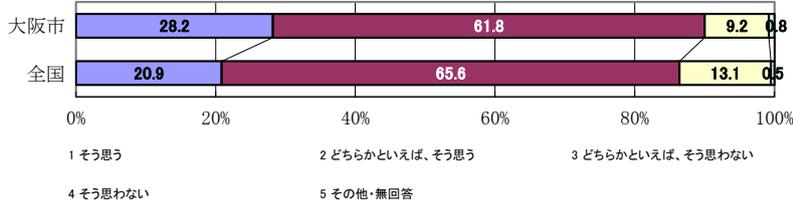
令和7年度 南港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



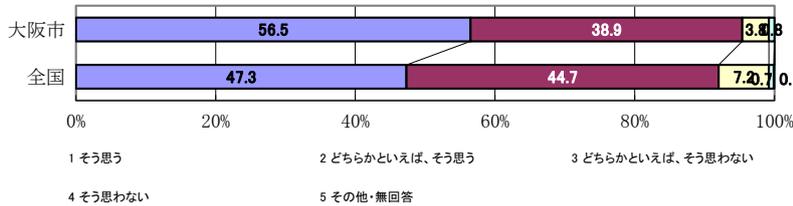
質問番号
質問事項
7
調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

学校 「そう思う」を選択



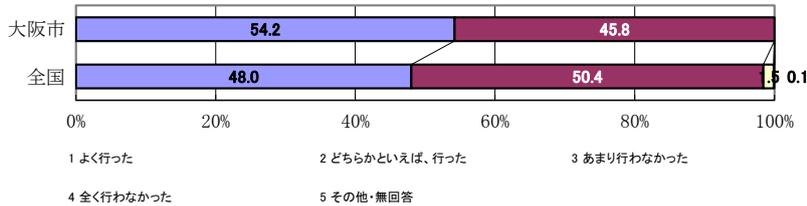
8
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



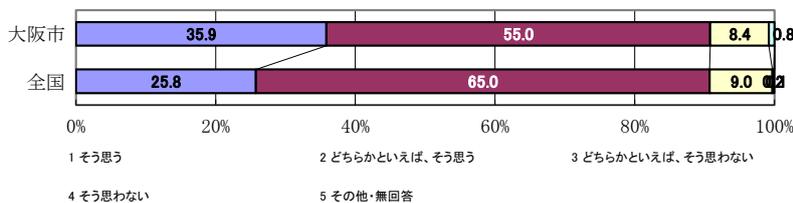
9
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

学校 「よく行った」を選択



27
調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



28
調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

学校 「そう思う」を選択

